

カキ(果樹類、落葉果樹の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(日数)	使用回数	灰色かび病	落葉病	黒星病	炭疽病	うどんこ病	黒点病	すす点病	(枯込防止)進
イオウFL	M2		*e	－					◎			
クムラス顆水	M2		－	－					◎			
石灰硫黄合剤	M2		－	－			◎		◎			
トップジンM水㊦	1		1	6		◎		◎	◎		◎	
トップジンMペースト㊦	1		*c	3								◎
ベンレート水㊧	1		1	6		◎		◎	◎		◎	
アフエットFL	7		1	3		◎						
カナメFL	7	劇	1	3	◎	◎			◎			
ケンジャFL	7		14	3	◎	◎			◎			
パレード15FL	7		1	2		◎			◎			
フルーツセイバーFL	7		1	3	◎	◎		◎	◎		◎	
アミスター10FL	11		7	3		◎		◎	◎	◎	◎	
スクレアFL	11		1	3	◎	◎		◎	◎			
ストロビーDF	11		14	3	◎	◎		◎	◎			
ファンタジスタ顆水	11		7	3	◎	◎		◎	◎			
フリントFL25	11		1	3		◎		◎	◎			
フロンサイドSC	29		45	1	◎	◎		◎				
フルピカFL	9		14	5	◎				◎			
アンビルFL	3		7	3					◎			
インダーFL	3		7	2		◎		◎	◎			
オンリーワンFL	3		1	3	◎	◎		◎	◎			
サブロール乳	3		14	4					◎			
スコア顆水	3		1	3		◎		◎	◎			
トリフミン水	3		1	3					◎	◎		
ルビゲン水	3		21	3					◎			
オキシンドー水80	M1		14	5		◎		◎	◎			
キノンドーFL	M1		14	5		◎		◎	◎			

カ

キ

力キ(果樹類、落葉果樹の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(日数)	使用回数	灰色かび病	落葉病	黒星病	炭疽病	うどんこ病	黒点病	すす点病	(ゆめ枯込防止)促進
ドキリンFL	M1		14	5		◎		◎	◎			
バッチレート塗	M1		*d	3								◎
ジマンダイセン水	M3		45	2		◎	◎	◎		◎		
チオノックFL	M3		30	2		◎		◎	◎			
トレノックスFL	M3		30	2		◎		◎	◎			
ペンコゼブ水	M3		45	2		◎		◎	◎			
オーソサイド水80	M4		7	5		◎		◎			◎	
パスポート顆水	M5		30	3		◎		◎	◎			
ベルクート水	M7		14	3	◎	◎	◎	◎	◎		◎	
デランFL	M9	劇	90	5		◎		◎	◎			
ストライド顆水	M11		14	4		◎		◎			◎	
ゲッター水㊟	1・10		7	3	◎	◎		◎				
ニマイパー水㊿	1・10		1	3	◎	◎		◎				
ルミライト水	1・3		1	3		◎			◎			
ホーマイコート水㊟	1・M3		*a	1				◎	◎			
ラビライト水㊟	1・M3		45	2		◎		◎	◎			
ナリアWDG	7・11		1	2	◎	◎		◎	◎			
ナティーボFL	11・3		1	3	◎	◎		◎	◎			
テーク水	3・M3		45	2		◎		◎	◎			
ブローダ水	3・M3		45	2		◎		◎	◎			
ビオネクトFL	M1・-		14	5		◎		◎	◎		◎	
ダイパワー水	M4・M7		14	3					◎			

㊟：チオファネートメチル含有剤 ㊿：ベノミル含有剤 ㊟を使用した場合には同じ作での㊿は使用しないこと。その逆も同様（種子への処理および塗布処理を除く、詳細はP.857参照）。*a:休眠期

*c:剪定整枝時、病患部削り取り直後、及び病枝切除後 *d:剪定時及び病患部削り取り直後

*e:発病前～発病初期

力

キ

力キ(果樹類、落葉果樹の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機 構分 類コ ード	人 畜 毒 性	使 用 時 期 (日 数)	使 用 回 数	ア ザ ミ ウ マ 類	カ キ ク ダ ア ザ ミ ウ マ 類	チ ヤ ノ キ イ ロ ア ザ ミ ウ マ 類	カ キ ノ ヒ メ ヨ コ バ イ 類	カ イ ガ ラ ム シ 類	カ メ シ 類	カ キ ノ ヘ タ ム シ ガ ガ 類	フ タ モ ン マ ダ ラ メ イ ガ 類	イ ラ ガ 類	ス カ シ バ 類	ヒ メ コ ス カ シ バ 類	ケ ム シ 類	ア メ リ カ シ ロ ヒ ト リ 類	ミ ガ ノ ガ 類	ハ ス モ ン ヨ ト ウ 類	コ ガ ネ ム シ 類	カ ミ キ リ ム シ 類	ハ ダ サ ビ ニ 類	
バシレックス水	11A		*b	-							◎		◎										
ハーベストオイル	UNM		*a	-					◎														
オリオン水40	1A	劇	21	1	◎	◎	◎	◎	◎				◎	◎			◎	◎					
エルサン水	1B		30	4	◎	◎	◎	◎	◎														
オルトラン水	1B		45	2		◎	◎		◎	フ													
ガットサイドS乳	1B		*d	2									カ			◎							
ジェイエース溶	1B		45	2		◎	◎					◎											
スミチオン乳*	1B		30	3					オ	◎	◎	◎	◎	◎			◎	若					
ダイアジノン水34	1B	劇	45	4					お					◎			◎						
マラソン乳	1B		30	4					◎					◎	◎								
キラップFL	2B		7	2	◎	◎	◎		◎														
アークリンク水	3A		30	3		◎	◎		◎	◎			◎						チ				
アーデントFL	3A		1	3	◎	◎	◎		◎	◎													◎
アグロスリン水	3A	劇	1	3	◎	◎	◎		◎	◎													
アディオソ乳	3A		7	5		◎	◎		◎	◎						◎	◎						
スカウトFL	3A	劇	7	5	◎	◎	◎		◎	◎													
テルスター水	3A		14	2		◎	◎	◎		◎													◎
テルスターFL	3A	劇	3	2		◎			◎	◎													
トレボン水	3A		30	3		◎	◎		◎	◎			◎						チ				
バイスロイドEW	3A	劇	14	3		◎	◎			◎													
マブリックEW	3A	劇	30	2			◎		◎	◎				◎					◎				
マブリック水20	3A	劇	30	2			◎		◎	◎				◎					◎				
ロディー水	3A	劇	7	3		◎	◎			◎	◎			◎									
ロビンフッドエアゾル	3A		1	5											◎	◎						◎	
アクタラ顆溶	4A		3	3		◎	◎		◎	◎													
アドマイヤー顆水	4A	劇	*f	3		◎	◎	◎		◎													
アルバリン顆溶	4A		1	3		◎	◎	◎		◎	◎												
スタークル顆溶			*e	1						◎													
ベストガード溶	4A		7	3			◎																
ダントツ溶	4A		7	3		◎	◎	◎	◎	◎													
モスピラン顆溶	4A	劇	1	3		◎	◎	◎	◎	◎													
トランスフォームFL	4C		1	3					◎														
ディアナWDG	5		1	2		◎	◎	◎				◎		◎									
デリゲートWDG	5		1	2		◎						◎		◎									
コルト顆水	9B		1	3			◎		◎														
ニッソラン水	10A		7	2																			◎
コテツFL	13	劇	14	2		◎	◎	◎				◎		◎								◎	ナ
パダンSG溶	14	劇	45	4			◎					◎	◎	◎		イ							
アタブロンSC	15		14	3		◎						◎		◎									
カスケード乳	15		14	2		◎						◎		◎			◎	◎					
ノーモルト乳	15		30	3								◎			◎								

カキ(果樹類、落葉果樹の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機 構分類 コード	人 畜 毒 性	使 用 時 期 (日 数)	使 用 回 数	ア ザ ミ ウ マ	カ キ ク ダ ア ザ ミ ウ マ	チ ヤ ノ キ イ ロ ア ザ ミ ウ マ	カ キ ノ ヒ メ ヨ コ バ イ	カ メ ム シ	カ キ ノ ヘ タ ム シ	カ キ ノ ホ ソ ガ	フ タ モ ン マ ダ ラ メ イ	ハ マ キ ム シ	イ ラ ガ	ス カ シ バ	ヒ メ コ ス カ シ バ	ケ ム シ	ア メ リ カ シ ロ ヒ ト	ミ ノ ガ	ハ ス モ ン ヨ ト	コ ガ ネ ム シ	カ ミ キ リ ム シ	カ キ サ ビ ダ	ハ ダ ニ
アブロード水	16		*g	2				幼																
マイトコーネFL	20D		7	1																				◎
サンマイト水	21A	劇	14	2		◎	◎																◎	◎
ダニトロンFL	21A		7	1																				◎
ピラニカ水	21A	劇	21	1																			◎	◎
モベントFL	23		7	3	◎	○	○	◎																
スターマイトFL	25A		1	1																				◎
ダニサラバFL	25A		1	2																				◎
ダニコングFL	25B		1	1																				◎
サムコルFL10	28		1	3							◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎					
テッパン液	28		1	2	◎	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎				
フェニックスFL	28		7	2						◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎					
			*h	1							◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎					
ヨーバルFL	28		1	2	◎					◎				◎		◎					◎			
ウララD F	29		14	2		◎																		
キックオフ顆水	4A・28		1	3	◎	○	○	◎	◎	◎	◎					◎	◎	◎	◎					

* 商品によって適用害虫が異なる。

*a:発芽前

*b:発生初期(但し収穫前日まで)

*c:成虫発生初期～終期

*d:産卵期～幼虫食入初期(但し収穫45日前まで)

*e:発芽前～発芽期

*f:収穫7日前まで(但し露地栽培については発芽期から開花期を除く)

*g:開花期まで(但し収穫45日前まで)

*h:開花期まで

イ:イラガ

オ:オオワタコナカイガラムシ及びフジコナカイガラムシ

カ:カキノキマダラメイガ

コ:コナカイガラムシ類

チ:チャミノガ

ナ:ナミハダニ及びカンザワハダニ

ヒ:ヒロヘリアオイラガ

フ:フジコナカイガラムシ

お:オオワタコナカイガラムシ若齢幼虫

幼:幼虫

若:若齢幼虫

カ

キ

カキ (果樹類、落葉果樹の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
落葉病	休眠期	・落葉を集めて処分する。	落葉病には、角斑落葉病と円星落葉病がある。 円星落葉病の発生が多いので6月上旬～7月上旬の散布が重要である。 ●耐性菌を生じやすいので連用しない。 ○を使用した場合には同じ作での㊟は使用しないこと、その逆も同様（種子への処理および塗布処理を除く、詳細はp. 857参照）。
	6月上旬～7月上旬・9月上旬	・次の薬剤のいずれかを散布する。 フロンスайдSC (FL) 2000倍 ベンレート水和剤●○ 2000～3000倍 ファンタジスタ顆粒水和剤● 3000～4000倍 ラビライト水和剤●㊟ 500～800倍	
黒星病		1. 窒素肥料は元肥を主体にし、過用しない。 2. 枝がこみあわないよう間伐する。 3. 病枝は切り取り、処分する。 4. 園内は排水を良好にする。	春と秋に雨が續くと多発しやすい。 次郎、禅寺丸は発生しやすい。
	発芽前 (3月下旬)	・次の薬剤を散布する。 石灰硫黄合剤 100倍	
	生育期	・次の薬剤を散布する。 ベルクト水和剤 1000～1500倍	
炭疽病		1. 窒素肥料は元肥を主体にし、過用しない。 2. 枝がこみあわないよう間伐する。 3. 病枝は切り取り、処分する。 4. 園内は排水を良好にする。 5. 剪定枝や落ち葉は翌年の伝染源となるので園内に放置しない。	春と秋に雨が續くと多発しやすい。 富有は発生しやすい。 ●DMI剤は連用しない。
	生育期	・次の薬剤のいずれかを散布する。 キノンドーフロアブル 800～1000倍 スコア顆粒水和剤● 3000倍 ベルクト水和剤 1000～1500倍	
うどんこ病	発芽前	1. 発病園では早めに落葉を集めて処分する。 2. 次の薬剤を散布する。 石灰硫黄合剤 100倍	●DMI剤は連用しない。
	生育期	・次の薬剤のいずれかを散布する。 アミスター10フロアブル 1000倍 ベルクト水和剤 1000～1500倍 トリフミン水和剤● 2000～3000倍	

力

丰

カキ (果樹類、落葉果樹の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
カメムシ類	7～9月	1. 防虫網の設置により成虫の飛来を防ぐ。 2. 次の薬剤のいずれかを散布する。 アクタラ顆粒水溶剤 2000倍 アディオン乳剤 2000～3000倍 アドマイヤー顆粒水和剤* _a 5000～10000倍 スミチオン乳剤 1000倍 テルスターフロアブル 3000～6000倍 ロディー水和剤 1500倍	7月頃より収穫期まで加害するが、発生量や飛来時期の年次変動が大きい。園内への飛来状況を確認する。 * _a 露地栽培については発芽期から開花期を除く
カキノヘタムシガ	12～2月(休眠期) 6月下旬・7月下旬～8月上旬	・主幹の粗皮削りやバンド誘殺を行う。 ・次の薬剤のいずれかを散布する。 アクタラ顆粒水溶剤 2000倍 コテツフロアブル 2000～4000倍 スミチオン乳剤 1000倍 ノーモルト乳剤 1000～2000倍 バシレックス水和剤 1000倍 バダんSG水溶剤 1500～3000倍 ヨーバルフロアブル 5000～10000倍 ロディー水和剤 1500倍	年2回発生
イラガ類	冬期 6月上旬～8月上旬(幼虫発生期)	・枝や幹に作られた繭をつぶす。 ・幼虫の発生を見たら、次の薬剤のいずれかを散布する。 スミチオン乳剤 1000倍 テッパン液剤 2000倍 ノーモルト乳剤 2000倍 バシレックス水和剤 1000倍 バダんSG水溶剤# 1500倍 マブリック水和剤20 2000～4000倍	土中に繭を作る種もある。 #イラガでの登録
アメリカシロヒトリ	5月下旬～6月上旬・8月中旬～9月上旬(幼虫発生期)	1. 孵化直後は幼虫が集団でいるので、早期発見に努めこれを捕殺する。 2. 次の薬剤のいずれかを散布する。 スミチオン乳剤 1000倍 ダイアジノン水和剤34 1000倍	低木の根元などで蛹になる。 巣網を離れて活動を始めると薬剤も効きにくくなる。

カ

キ